

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 4 菩薩	大乘仏教では、自己の解脱のみを目指す阿羅漢に対し、すべての衆生を救うために利他行を実践する「菩薩（菩提薩埵）」が理想の修行者とされた。菩薩は、すべての存在が空であることを理解し、自他の区別を超えた慈悲の実践に努める。
問2	答え 2 魂の三分説	プラトンは、人間の魂を理性、気概、欲望の3つの部分に分ける考え方を提唱した。彼によれば、理性が気概を従えて欲望をコントロールし、それぞれが知恵、勇氣、節制という徳を發揮して調和した状態が「正義」である。逆に、欲望的部分が理性的部分や気概的部分を支配し、魂の秩序が乱れることが不正な行為の原因であるとされた。
問3	答え 2 莊子	世俗的な価値の相対性を説き、人為的な区別を捨てて自然のありのままに従う精神的自由の境地を重視した思想家は莊子である。彼は万物を等しいものとみなす「万物斉同」を主張し、老子とともに道家の代表的な思想家となった。
問4	答え 4 無為自然	人為的な道徳や制度を否定し、作為を交えずに自然の理に従って生きることを表す言葉である。老子や莊子ら道家思想の根本的な立場を示しており、儒家の説く人為的な「礼」や「仁」に対抗する概念として提示された。
問5	答え 4 ファリサイ派	イエスが活動した当時のユダヤ社会では、律法の厳格な遵守を主張する人々が主流を占めていた。彼らは律法を守れない人々を罪人として排除したが、イエスはこうした形式的な律法遵守（律法主義）を批判し、律法の本来の精神である愛の実践を説いた。この対立したグループの代表例がファリサイ派である。
問6	答え 1 アヒンサー	ガンディーは、真理の把持（サティヤグラハ）を実践するための不可欠な手段として、生きものを傷つけないというインド伝統の思想である「不殺生・非暴力」を位置づけました。これは、イギリスの塩専売に抗議した「塩の行進」などの大衆運動において、暴力に訴えない抵抗の精神的支柱となりました。
問7	答え 1 莊子	儒家や墨家が提示する聖人の知恵や仁義といった人為的な道徳こそが、人々に首かせ足かせをはめるようなものであり、社会に多くの刑罰をもたらす原因になっていると批判した。彼は、作為を捨てて自然のありのままに従う「無為自然」や、万物を等しく見る「万物斉同」を主張した。
問8	答え 4 ソクラテス	「魂の配慮」を重視し、知恵や真実を求めずに金銭や評判・名誉ばかりを追う生き方を批判したのはソクラテスである。彼は対話（問答法）を通じて人々に「無知の知」を自覚させ、真の知恵を探求することを求めた。
問9	答え 4 墨子	儒家が重視する家族主義的な愛を身内びいきの差別愛として批判し、すべての人を等しく愛する「兼愛」を主張した。また、民衆の生活を圧迫する支配者層の贅沢な礼楽や儀礼を無駄なものとして退ける「非楽」や、侵略戦争を否定する「非攻」を説いた。
問10	答え 2 孟子	人間の本性を善とする性善説を唱え、四端（惻隱・羞惡・辞讓・是非の心）を育てることで四徳（仁・義・礼・智）を実現できるとした。彼は外的な規範である礼楽も、人間の内なる道徳的本性に由来するものと捉え、武力による霸道政治を退けて徳治による王道政治を主張した。これに対し、人間の本性を悪とし、礼による矯正を重視する性悪説を唱えたのは荀子である。
問11	答え 2 理気二元論	宋代の朱熹（朱子）は、宇宙の万物が、万物の根源的な規範・法則である「理」と、万物を構成する物質的な素材・運動のエネルギーである「気」の二つから構成されていると考えた。理は万物に内在する道徳的規範であり、気が運動・結合することで具体的な事物が形成されるとされる。